2025.1.28(火) 山形新聞 15面

紅花染め 私だけの一枚

米沢興譲館高生主催 小野川温泉でフェア

県の花・紅花に親しむ「紅花フェアin小野川温泉」が26日、米沢市の同温泉「宝珠の湯」で開かれ、来場者がハンカチの紅花染めやペーパーフラワー制作を体験した。

紅花の学習や魅力発信に取り組んできた米沢興譲館高（吉田直史校長）の紅花プロジェクト班が主催した。このうち、紅花染め体験では米沢織の織元・新田（同市）の役員らがアドバイスした。訪れた人は小さな板などを使い模様を付ける「絞り」を手がけるなどし、自分だけの一枚に仕上げていた。

紅花染めの出来栄えを確かめる来場者
＝米沢市・宝珠の湯

「キジクル」に
AI編集動画

神奈川県から免許合宿で同温泉に滞在している桜美林大4年清水桃湖さん(22)は「想像よりもきれいにできて大満足」と笑顔を見せた。同班の2年小関さくらさん(17)は「小野川温泉を訪れた人たちに山形の紅花の魅力を感じてもらう良い機会になった」と話していた。

（斎藤健太）

2025.1.28(火) 山形新聞 15面

（第三種郵便物認可）　第50084号

地域食堂 生徒が切り盛り

米沢興譲館高 献立作りから担当

子ども食堂や地域食堂の運営スタッフが不足しているとの課題を踏まえ、米沢市の米沢興譲館高（吉田直史校長）の生徒たちが25日、市内で定期的に開かれている地域食堂を中心になって企画運営した。校内でボランティアを募り、献立作りや調理、交流イベントを担当した。

地域食堂を切り盛りした生徒ら＝米沢市

同市のNPO法人から・ころセンターで月2回開かれている地域食堂「みんなつながるサロン」で、同校の2年生6人が利用者に昼食を振る舞った。中心となっている生徒は3人で、子ども食堂や地域食堂をテーマに探究学習に取り組んでいる。3人は市内の複数の運営団体に取材し、運営側の人手不足が課題となっていることを知った。自らボランティアとして参加するほか、昨年12月からは校内で希望者を募り、同地域食堂の運営に協力してきた。

人手不足、探究学習で知り協力

今回は、同法人の後押しを受け、中心となって切り盛りする機会を得た。献立考案、食材の買い出しを担い、約40食分のちらしずし、ナムルを調理した。季節感があり、栄養バランスが良く、持ち帰ることもできるメニューとすることに知恵を絞った。

親子連れなど25人が味わい、「おいしい」とお代わりをする子どももいた。一足早く豆まきも楽しんだ。探究学習で取り組む中嶋大陽さん(17)は「予算の範囲内でまとまった人数分の献立を考えなくてはならず、勉強になった。活動を通し、地域食堂、子ども食堂が、さまざまな人の居場所になっていると感じた」と話した。

（大坪千絵）

2025.2.7（金）山形新聞 15面

（第三種郵便物認可）　第50094号

かるたで米沢弁 親しみやすく

興譲館高生が作成

方言離れに問題意識

米沢興譲館高（米沢市、吉田直史校長）の生徒が、米沢の方言をテーマにしたオリジナルのかるたを作った。子どもたちに遊びを通して地元に根付く言葉に親しんでもらう目的。先月28日に同市南原小（高野浩男校長）でこれを使ったかるた大会を開き、児童が「おしょうしな」に代表される米沢弁について、楽しみながら理解を深めた。

同高の探究学習の一環で若い世代の方言離れに問題意識を持った2年生4人が企画した。「おしょうしな（ありがとう）」「こしゃう（作る）」といった方言を用い、「おたよりは　両手で受け取り　おしょうしな」「消しかすで　ねり消しをこしゃう　休み時間」など学校生活に絡め、方言を親しみやすく活用した。

南原小児童楽しむ「地元の言葉知ることできた」

同高が催したかるた大会では高校生が読み手を務め児童約20人が札を取り合った。かるた遊びの前後に児童にアンケート調査を行い、方言に対する意識の変化などを調べた結果、米沢弁をあまり知らず、田舎っぽいとの印象を持っていた小学生も、かるたを使った後は方言に対する関心が高まったとの回答が多かったという。

同小3年菅原悠吏さん(9)は「方言はあまり使わないけど、かるたをやってみて、地元の言葉を知ることができて楽しかった」と笑顔を見せた。同高の竹田琹さん(17)は「方言は地域のアイデンティティー。多くの子どもたちに興味を持ってもらえて良かった」と手応えを語った。

（斎藤健太）

米沢興譲館高生が作った方言かるたを楽しむ小学生＝米沢市・南原小

2025年2月22日(土曜日) 山形新聞 13面

多彩な探究 成果を披露

米沢興譲館高 1、2年生

探究活動の成果を披露する生徒ら＝米沢市・米沢興譲館高

米沢市の米沢興譲館高（吉田直史校長）の探究活動発表会が20日、同校で開かれた。1、2年生約390人が、地域振興や災害対策、環境負荷軽減などの多彩なテーマで取り組んだ成果を披露した。

テーマは▽仮設住宅の孤立防止策▽植物由来の素材を使った緩衝材の作成▽近年拡大する推し活市場の分析―など多岐にわたる。これまでの研究成果を発表し、他の生徒や、山形大、米沢栄養大、米沢商工会議所などの指導助言者から質問を受け付けた。

自身の経験を踏まえ、食物アレルギーへの理解度向上に取り組んだグループは、動画を作成し、市内の中学校で啓発活動を行った。2年花輪茉瑛（まりえ）さん(17)は「食物アレルギーのある人が安心して生活できるよう今後も活動したい」と話した。2年生58班を対象に審査が行われ、12班が5月の成果発表会に進む。

（大坪千絵）

2025.3.1（土） 山形新聞 13面

（第三種郵便物認可）　第50115号

米沢興譲館高 パウンドケーキ最高賞

「おいしく健康」食べてみて

大石田の企業とコラボで販売

県産米粉やエゴマ、リンゴ使用

米沢市の米沢興譲館高（吉田直史校長）の生徒が考案した米粉パウンドケーキが、県主催の「高校生山形うまいもの商品開発プロジェクト」で最高賞に選ばれた。AndMERCI（大石田町、清水憲子社長）とコラボレーションして商品化にこぎ着け、24日に市内の上杉城史苑で販売した。

米粉パウンドケーキを手がけたのは、同校の料理科学部に所属する1、2年生計4人のチーム「KOJO」。県産米粉や尾花沢産エゴマ、天童産リンゴといった特産品を使って「おいしくて健康になれるスイーツ」をテーマにレシピを考案し、「AndHEALTHY」と名付けた。最高賞の商品化大賞に選ばれ、同社とのコラボが実現した。

この日、生徒たちは観光客らに「お土産にいかがですか」と声をかけ、50本を売り切った。2年淀川琴音さん(17)は「試行錯誤を重ねたレシピが商品になった。山形の魅力が伝わればうれしい」と話した。清水社長は「県の特産品を味わいながら栄養が取れるレシピに感動した」といい、パウンドケーキを同社の定番商品として今後も店舗で販売する予定。

同プロジェクトは、県産農林水産物を活用して、企業と商品化を目指す高校生の取り組み。今回はスイーツを募集し、県内11校から28作品の応募があった。同校のほか、山形西高「チーム甘酒」のサンドクッキーや、置賜農業高「星のプリンセス」のカスタード米粉パンが最高賞に選ばれ、県内企業とのコラボ商品を販売した。（杉山みなみ）

生徒がレシピを考案した米粉パウンドケーキ「AndHEALTHY」＝米沢市・上杉城史苑

山形新聞
2025年（令和7年）3月9日（日曜日） 26面 社会

ケニアの母子支え 交流

JICA主催・中高生エッセイコンテスト

渡会さん（米沢興譲館高）文科大臣賞

賞状を手にする渡会愛香さん＝米沢市・米沢興譲館高

国際協力機構（JICA）が主催する「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」高校生の部で、米沢興譲館高1年の渡会愛香さん(16)が文部科学大臣賞に選ばれた。最優秀賞3点のうちの一つで、高校生の部には1万9676点の応募があった。シングルマザーの母にかけられた言葉をきっかけに、ケニアのひとり親家庭への支援を始め、そこから学んだことをつづり、高い評価を得た。

エッセーでは「（ケニアの状況を）もっと早く知っていれば、自分が日本に生まれ、平穏に暮らせていることに感謝できていたはず」との思いを吐露。現地の母親との交流を通し、支援する側とされる側が心を寄せ合うという寄付の意味に気付いたとし、自分事として世界の人々と関わることの重要性を訴えた。

渡会さんは小学生の時、両親が離婚し、ひとり親家庭で育った。苦労を感じたことはないが、母親は「私たちは日本に生まれているだけで幸せ。途上国では、もっと苦労している母子家庭もあると思う。本当に尊敬する」と話したという。その後、国内外のひとり親家庭への支援状況を調べた。日本の状況は分かったが、海外の情報にはたどり着けず、そのままになっていた。

高校に進学後、当時のことを思い出し、途上国の母子のためにできることを探した。ケニアのシングルマザーへの食料支援や子どもへの医療支援をしているNPO法人を見つけ、毎月1500円の寄付を始めた。支援金を受け取った現地の母親らとオンラインやメールで交流もした。やりとりする中で、月収は3千～4千円で、何も食べない日があることを知った。「聞いていてつらくなるくらい。日本ではあり得ない」と感じた。食料を抱える母親の笑顔に、胸がいっぱいになったという。

コンテストを通し、途上国をテーマにした映画を作って現状を多くの人に広めたいとの思いや、青年海外協力隊の活動への関心が芽生えたとしており、「最優秀賞と知り、とてもうれしかった。多くの人に世界の状況を知ってほしい」と語った。（大坪千絵）

2025.3.17(月)
山形新聞 広告特集版 1面

山形県立米沢興譲館高等学校

校長 吉田直史
所在地 米沢市大字笹野1101番地
創立 明治19年9月19日
生徒数 588人

本校は1697（元禄10）年、米沢藩の学館を前身とする300年以上の歴史を誇る伝統校です。「興譲」の精神、すなわち「自他の生命を尊重する精神」「己を磨き、誠を尽くす精神」「世のために尽くす精神」を教育精神とし、多くの優れた人材を育て、2万余人を数える卒業生を送り出してきました。

普通科、理数探究科、国際探究科を設置し、思考力・判断力を磨き、知識を活用する力を身に付けるため、自ら課題を発見し解決に取り組む学習を重視しています。さらに、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール指定校として、「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を目指し、「異分野融合サイエンス」や「スーパーサイエンスリサーチ」等の学校設定科目をはじめ、高大連携や海外研修、地域の人材や企業との協働などの多彩な取り組みを実践しています。

学校行事には、体育祭、興譲祭、1年生の東京探究研修、2年生普通科のキャリア研修、2年生探究科の関西サイエンス研修、国際探究研修、海外研修などがあります。部活動も盛んで、令和6年度は、フェンシング部、陸上競技部、スキー部、新聞文芸部、美術部、コアスーパーサイエンスクラブが全国大会で活躍しました。

米沢興譲館高校で輝く自分を発見し、素晴らしい仲間たちと切磋琢磨しながら、自分の大きな夢を実現させてください。

海外研修 台湾

在校生 message

高校生活、満喫するなら興譲館

自治会長 中川陽翔

私たちの学校、米沢興譲館高等学校は300年の歴史を持つ伝統ある高校であり、多才な生徒が、日々学習に励んでいます。単なる知識の吸収ではなく、生徒1人ひとりの思考力、発想力を鍛えることができる多様な授業の数々、自分の興味・関心を最大限バックアップしてくれるたくさんの機会が興譲館には溢れています。そして何と言っても興譲館の魅力は、全てに全力、本気の興譲館生です。学業では難関大多数合格、部活動では全国大会出場、行事では自由度も完成度も高い様々な活動、興譲館はそんな学校です。高校生活を最大限満喫したいそこのあなた！元気ハツラツの先輩たちが皆さんの入学を心待ちにしています。

2025.3.31(月) 山形新聞 10面

新聞
(第三種郵便物認可)

考えるチカラは知ることから

1学級1新聞® 読んでみました

高校版 米沢興譲館高

幅広い知識得られる

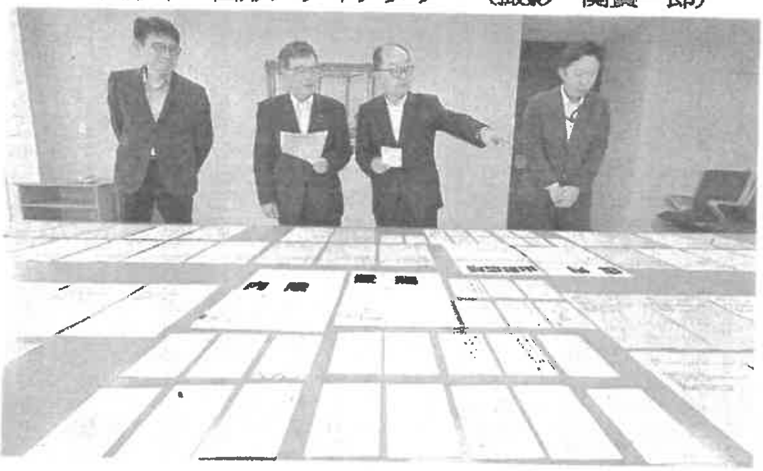
▽2年情野有香さん(17)「自宅で勉強する際、頭を切り替えて集中したい時に新聞を読む。中学校教諭を志望しており、少子化や児童虐待など子どもに関する記事が気になる。ネットでは興味がある話題ばかり見てしまうが、新聞は幅広い知識を得られ、読解力や思考力も鍛えられる。地域のイベントや生活に直結する問題が掲載されており、家族との会話のきっかけにもなっている」

他者の意見にも注目

▽五十嵐康博教諭(49)「論理的思考力や表現力を高める科目『ロジカルコミュニケーション』で、客観的に事実を伝える文章の手本として新聞を活用した。日々変化する社会の動きが正しく整頓され、多くの発見がある新聞は『生きた教材』。自分が住む地域で起きていることに幅広く関心を持つきっかけにもなる。生徒には、新聞を読んで他者の意見に目を向け、視野を広げてほしいと願う」

2025年 6月26日(木曜日) 山形新聞 20面

参院選への投票を呼びかける啓発標語を選んだ審査会
＝山形市・山形メディアタワー（撮影・関賢一郎）



山形新聞、山形放送 啓発標語の審査会

特選に渡部さん（米沢興譲館高3年）

参院選 2025

第27回参院選（7月3日公示、同20日投開票）を前に、山形新聞、山形放送が募集した啓発標語の審査会が25日、山形市の山形メディアタワーで開かれた。特選には米沢市窪田町東江股、米沢興譲館高3年の渡部柑乃さん(17)の「変えれるよ、初めて臨む、私の一票。」が選ばれた。

啓発標語は投票総参加と明るく正しい選挙を呼びかけようと、国政選挙と地方選挙に合わせて募っている。今回は県内全地域から598点が寄せられた。年代は8歳から94歳までと幅広く、コメの価格高騰や政治改革をテーマにした投稿が目立った。

山形新聞の佐藤秀之社長、松田直樹編集局長、山形放送の板垣正義社長、三浦重行報道制作局長が審査に当たった。表彰式は7月1日、山形メディアタワーで行われる。特選・入選作は選挙期間中、新聞やテレビ、ラジオで紹介する。

（稲村裕介）

◇特選

変えれるよ、初めて臨む、私の一票。
米沢市窪田町東江股、米沢興譲館高3年渡部柑乃さん(17)

◇入選

投票し　お米と政治の　実り待つ
酒田市新橋4丁目、会社員菅原誠さん(54)

行かないイイ訳つくるより　行ってイイ街つくりましょう
天童市中里7丁目、団体職員川俣寛道さん(56)

票のタネ　植えて花咲く　あしたの政治
中山町あおば、主婦柏倉和美さん(48)

投票で　叶う未来が　きっとある
新庄市若葉町、アルバイト伊藤圭子さん(59)

「関税」の暴走止めよ参院選
南陽市高梨、無職高橋正己さん(79)

2025年7月4日(金曜日)山形新聞 1面

変えれるよ、初めて臨む、私の一票。

2025参院選
本社公募特選標語

特選標語の作者

米沢市窪田町東江股、米沢興譲館高3年渡部柚乃(かの)さん(17)　投票によって日本を動かすことができる。標語を通じて1票でも増え、政治への関心が高まってくれたらうれしい。

2025年7月10日(木曜日)山形新聞 10面

米沢興讓館

酒井　七穂主将

守備から流れを引き寄せる。試合展開にかかわらず、常に冷静さを保ち、かつ思い切りよくプレーしたい。

▽部長＝山下　慶信(32)
▽監督＝渡辺　大也(32)

①	酒井　七穂	3	小　国
2	三浦　　信	2	米沢四
3	土屋　優心	2	赤　湯
4	小松　優治	3	飯　豊
5	菅　　琉人	2	米沢二
6	落合　冴月	3	沖　郷
7	佐藤　大輔	2	米沢三
8	後藤　隆汰	3	米沢四
9	山口　航輝	3	米沢七
10	片桐　拓人	3	米沢三
11	須藤　　逞	2	米沢六
12	佐藤　彰真	1	米沢三
13	船山直太郎	1	宮　内
14	大内　優輔	2	米沢一
15	近野　礼音	1	米沢二
16	情野　　廉	1	川　西
17	大浦　健跳	1	赤　湯
18	太田　陽人	1	米沢二
19	松田　竜弥	1	米沢三
20	加藤　　諒	1	長井南

昨年夏の大会記録

▽2回戦　○4－3　鶴岡工（延長十回）
▽3回戦　●2－11　羽黒（七回コールド）

2025年7月13日(日曜日) 山形新聞 20面

第107回 全国高校野球 山形大会 第3日

第107回全国高校野球選手権山形大会は第3日の12日、中山町のヤマリョースタジアム山形など4会場で2回戦8試合を行った。

創学館は6－0で新庄東を退け、鶴岡高専は3－2で酒田東に競り勝った。米沢興譲館は6－2で鶴岡工を下し、寒河江は8－4で酒田西に勝った。山形中央は7－0の八回コールドで米沢東に勝利。東海大山形は新庄神室産に11－0で、致道館は天童に16－0で、それぞれ五回コールド勝ちした。村山産は8－1の七回コールドで南陽に勝った。

第4日の13日は2回戦8試合を行う。（五十嵐聡）

米沢興譲館 光る足攻

8盗塁

▽2回戦（米沢市営野球場第1試合）

米沢興譲館	000	400	101	6
鶴岡工	000	020	000	2

（米）酒井七穂、後藤隆汰－三浦信

（鶴）石塚琉希、川安涼－本間陽翔

▽二塁打＝後藤隆汰（米）川安涼、丸山寛人（鶴）

〈米沢興譲館－鶴岡工〉4回表興譲館無死二塁、敵失の間に二走佐藤大輔が生還し先制する＝米沢市営野球場

【評】米沢興譲館は好機で畳みかける集中力がさえた。盗塁は8で足を絡めた攻撃も効果的。鶴岡工は打線がつながらず攻め手を欠いた。（須藤仁）

相手の隙突き 膠着打開

○…米沢興譲館は積極的な走塁で得点を重ねて鶴岡工を突き放した。果敢に次の塁を狙う姿勢で相手に圧力をかけ続け、主将酒井七穂は「うまく流れを持ってくることができた」と手応えを口にした。

四回にはチーム初安打を放った2番佐藤大輔がすぐさま二盗に成功。好機を広げ、敵失の間に先制のホームを踏んだ。「狙い通りの展開」と佐藤。3番後藤隆汰や4番三浦信も相手の隙を突いて次の塁を陥れチャンスメークするなど、膠着（こうちゃく）状態を積極的な仕掛けで崩した。

2点リードの七回には浅めの右犠飛で三走落合冴月が果敢に本塁に突入し追加点を奪うなど、存分に機動力を武器とした。渡辺大也監督は「選手たちが持ち味を十分に発揮してくれた」と納得顔だった。（須藤仁）

【米沢興譲館】

	選手	打	安	点	振	球
⑥	落合	4	1	0	0	1
⑦	佐藤大	5	2	0	0	0
⑧1	後藤	5	2	1	1	0
②	三浦	4	2	1	1	1
⑨8	山口	3	0	1	1	0
④	小松	4	1	0	2	0
③	土屋	4	2	2	0	0
①9	酒井	4	0	0	1	0
⑤	菅	3	0	0	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
2	8	1	1	8	36	10	5	6	2

【鶴岡工】

	選手	打	安	点	振	球
⑦	丸山	1	1	1	0	2
⑨	冨樫	4	1	1	0	0
⑧	伊藤	3	1	0	0	1
②	本間陽	4	0	0	1	0
⑥	上野	4	0	0	1	0
①3	石塚	3	0	0	2	1
⑤	佐藤柊	4	1	0	1	0
③1	川安	3	1	0	1	1
④	榎本	4	1	0	1	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
1	1	2	0	7	30	6	2	7	5

▽暴投＝酒井（米）石塚（鶴）

▽妨害出塁＝菅（米）

投手	回	打	安	振	球	責
酒井	5	22	5	3	3	2
後藤	4	14	1	4	2	0
石塚	6⅔	28	7	5	1	4
川安	3	13	3	1	1	1

2025年 7月19日（土曜日）山形新聞12面

米沢の紅花 可能性は

関係者や高校生 普及活動や今後語るシンポ

【米沢】米沢市では今月いっぱい、「最上川源流よねざわ紅花まつり」が開かれている。紅花染め体験や、草木染の工房見学、展示会、料理教室など、紅花の魅力に触れる催しが盛りだくさんとなっている。キックオフイベントでは、生産や染色に取り組む関係者や、地元の高校生らが紅花の可能性について展望を語り合った。

同まつりは、最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会（会長・近藤洋介市長）が主催。摘み取りや染色が体験できるコーナーを市内各所で随時開催するほか、紅花をモチーフに製作した「原方刺し子」や、フラワーアレンジメントの作品展示などを行う。

まつり開催中

キックオフイベント「よねざわ紅花シンポジウム〜米沢に咲く、紅花。〜」は6日、同市の伝国の杜で開かれた。参加者がこれまでに実施した紅花の普及活動について紹介したほか、トークディスカッションでは「地域の紅花文化を知る・活かす・継承する」をテーマに、紅花産業の関係者や高校生らが議論した。

パネリストは、川島印刷（米沢市）の本間かりんさん、米沢女子短期大ボランティアサークル「ポプラ」OGの辺見舞衣さん、米沢鶴城高3年佐藤永琉さん、米沢興譲館高3年小関さくらさんの計4人が務めた。「伝統を受け継ぐだけでなく、新たな価値を創造する必要がある」「米沢の紅花について知る機会を教育現場で取り入れてほしい」などと意見を交わした。

各地でイベントや展示

市地域振興課の相田隆行副主幹は「紅花の新たな活用法を探り、貴重な地域資源として市を盛り上げたい」と話している。

開催中の展示会や今後の主なイベントは次の通り。

▽紅花ペーパーフラワー体験＝19日・東部コミュニティセンター▽紅花料理教室＝同日・松川コミュニティセンター▽すり染め体験＝21日・南部コミュニティセンター▽米沢さしこの会作品展＝23日まで、よねざわ市民ギャラリー▽赤崩草木染研究所工房見学＝26日・同所―など。

問い合わせは同協議会0238（22）5111。

（杉山みなみ）

紅花の魅力や可能性について意見を交わしたトークディスカッション＝米沢市・伝国の杜

2025年7月31日(木曜日) 山形新聞22面

米沢興譲館と酒田光陵のチーム考案

高校生山形のうまいもの商品開発コンテスト

「フルーツ150周年記念賞」に3作

「ブルーベリーの紅花タルト」

「しろこめラ・パン」

「いちごとれもんのピタフル、べりース」

県が主催する「高校生山形のうまいもの商品開発コンテスト」の最終選考会が30日、山形市の遊学館で開かれ、商品化につながる「やまがたフルーツ150周年記念賞」に米沢興譲館高の「べりべこ」と「esprit（エスプリ）」の2チーム、酒田光陵高の「チーム友達」の3作品が選ばれた。

地産地消への関心を高めてもらおうと、毎年開催。6回目の今回は県内で果樹栽培が始まって150周年を記念し、県産フルーツを使用したスイーツのアイデアを募った。15点の応募があり、最終選考会では書類審査を通過した6点について食味審査などを行った。

べりべこが考案した「ブルーベリーの紅花タルト」は、同記念賞の「シベール賞」に輝いた。雪山に見立てたチーズクリームでブルーベリークリームを覆い、紅花の花びらで彩った。チーム友達の「しろこめラ・パン」は、同記念賞の「東北日本ハム賞」を受賞。米粉を使ったパンにラ・フランスの果汁を入れ、果実を盛り付けた。espritの「いちごとれもんのピタフル、べりース」は、同記念賞の「ホテルメトロポリタン山形賞」を獲得した。レモンゼリーとイチゴのムースに生クリームなどをトッピングした。他の入賞作品は次の通り。（かっこ内は校名）

▽県農林水産部長賞＝いちごきらめく米粉タルト（米沢興譲館）▽県教育局高校教育課長賞＝べこニリース（米沢鶴城）▽おいしい山形推進機構賞＝べりーズのかくれんぼ（置賜農業）

（近岡国史）

2025年 8月7日(木曜日) 山形新聞 13面

中国インターハイ（6日）

石原（米沢興譲館）初出場3位

フェンシング女子個人エペ

全国高校総体（インターハイ）は6日、島根県安来市などで各競技を行った。県勢はフェンシング女子個人エペで石原菜里（米沢興譲館）が3位に入った。バレーボール女子の米沢中央は予選グループ戦と、その後の敗者復活戦でともに敗れた。

バドミントン女子団体で、庄内町出身の上野優寿（ゆず）がダブルスで出場したふたば未来学園（福島）は準優勝だった。

（五十嵐聡）

フェンシング

（島根県安来市民体育館）

▽男子エペ予選リーグ第6プール 藤戸慧心（米沢東）3勝1敗＝予選トーナメント進出

▽同第11プール 斎藤圭吾（山形東）1勝3敗＝予選トーナメント進出

▽男子エペ予選トーナメント1回戦

岡怜樹（山口・岩国工）15―6 藤戸慧心

▽同1回戦

北川獅旺（岐阜・大垣南）15―9 斎藤圭吾

▽男子エペ決勝

中浦秀哲（栃木・栃木商）14―13 佐々木碧（福井・北陸）

▽女子エペ予選リーグ第15プール 長岡陽奈（山形西）2勝2敗＝予選トーナメント進出

▽同第16プール 石原菜里（米沢興譲館）2勝2敗＝予選トーナメント進出

▽女子エペ予選トーナメント1回戦

三沢汐音（長野・赤穂）15―9 長岡陽奈

意識変え 試合重ね成長

石原菜里

新星が現れた。フェンシング女子個人エペでインターハイ初出場の石原菜里（米沢興譲館）が3位に食い込んだ。前評判こそ高くなかったが「試合をしながら成長した」と高田和典監督。積極的に前に出て左手の剣で突き、トーナメントを勝ち進んだ2年生は「自分が一番驚いている」と興奮気味に語った。

レベルの高い相手との試合を想定し、距離を取りカウンターを狙う戦いを練習してきた。予選リーグは2勝2敗で通過したが内容が良くなかった。「間合いを詰めないとポイントを取れない」と意識を変えた。これが奏功した。

遠い間合いの攻防を交えながら、機を見て懐に飛び込む。準々決勝は中盤の連続得点で波に乗り、敗れた準決勝も途中まで競り合った。事前に相手の実績などの情報は耳に入れず「大会を楽しもうと思い、緊張はなかった」。自然体も好結果につながった。

中学ではソフトテニスに取り組み、高校の体験入部で「雰囲気が良い」とフェンシングの世界に飛び込んだ。「相手の足を突く攻めや攻撃を誘う動きなど、教わったことができるようになりたい」。自ら次々に挙げた課題は伸び代の大きさの裏返しだ。

（五十嵐聡）

2025年 8月29日(金曜日) 山形新聞 13面

米沢興譲館高生考案

ヒメ チョコ クッキー

兼続が推奨 苦み和らげ 市内店協力

君に届け ウコギスイーツ

米沢市の米沢興譲館高(吉田直史校長)の3年生3人が、松島屋菓子店(同市)の協力を得て、米沢の伝統食材ウコギを使った「ヒメチョコクッキー」を考案した。若い世代を中心に、地元の伝統食材に親しみを持ってもらうのが狙い。30日に開催される同校の文化祭などで販売する。

米沢興譲館高の生徒が考案した「ヒメチョコクッキー」=米沢市

生徒3人は探究学習のテーマにウコギを選び、1年間にわたり研究してきた。ポリフェノールやビタミン、カルシウムなど優れた栄養価で健康効果が高い一方、認知度が低下し、生産農家が大幅に減少していることを知ったという。米沢の伝統食材が途絶えつつあることに危機感を抱き、若い世代にも広めようと活用方法を探ってきた。

そこで3人はウコギを使ったスイーツ作りに挑戦した。クッキーには、ウコギと同じくポリフェノールを多く含み、葉の苦みを和らげる甘さのあるチョコレートを使用。コーティングはホワイトチョコレートで味に変化を出し、表面に色鮮やかなウコギパウダーを振りかけた。ウコギは数種類あるが、米沢藩の重臣・直江兼続が推奨したとされる「ヒメウコギ」を選び、商品名にも盛り込んだ。

今年1月ごろから試作を繰り返し、同店と食感や価格、他商品との区別化について何度も意見交換を重ねたという。3年大木光さん(18)は「ウコギは現代の健康志向にマッチすると思った。米沢のことをもっと深く知りたいと思うきっかけになればうれしい」と話している。

興譲祭などで販売

30日に開催される同校の文化祭「興譲祭」では、午前10時～午後2時半の一般公開で販売する。10月26日に行われる同市南原地区の文化祭でも販売予定。飲み物付きで1枚250円。商品に関する問い合わせは同店0238(23)0212。

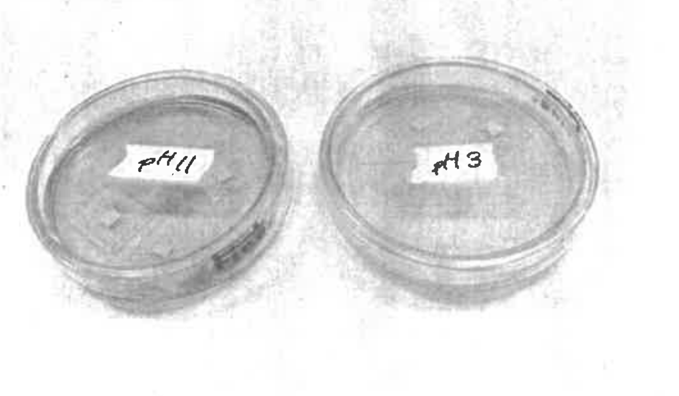
(杉山みなみ)

米沢興譲館高校（米沢市）

SSH指定通算17年目の探究活動

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けて通算17年目となる米沢興譲館高校。その探究活動は活発で、生徒は主体的に研究テーマを設定し、文理合わせて年間60本以上の研究が行われています。

今年、注目を集めたのが、男子生徒4人組による「サフラワーイエローに特化したベニバナ型太陽電池の性能向上」と題した研究。これは、山形県の県花であるベニバナの色素を利用した環境配慮型の太陽電池に関するもの。先行研究で示唆されていた、色素溶液の性質（pH）が電池の発電能力に与える影響を深く掘り下げました。



2種の色素溶液。左がpH11、右がpH3。アルカリ性と酸性で色が異なります

ベニバナで拓く次世代エネ
手を動かしつかんだ達成感

チームは、ガラス電極に酸化チタンのペーストを塗って焼き固める工程から自らの手で行い、pHの異なる複数のサフラワーイエロー液を準備。電極を溶液に浸して色素を吸着させ、性能を比較測定しました。その結果、pHが低い酸性の溶液を用いるほど電極の色が濃くなり、発電能力も向上することを突き止めました。

「自分たちで問いを立て、実験計画を考え、結果を考察するまで、全てを自由にデザインできた。学校の学びは制限があるものだという固定観念が覆され、探究活動の本当の魅力に気づきました」。メンバーは研究の醍醐味をそう語ります。教科書のない学びに戸惑いながらも、仮説と検証を繰り返す日々。仲間と議論を重ね、実際に手を動かしてデータを取るプロセスは、何物にも代えがたい達成感をもたらしました。「この面白さを後輩たちにも託したい。次世代を育成するための太陽電池の学習キットのような形に発展できれば、さらに面白い」と目を輝かせて答えてくれました。

（右から）鈴木蛍助さん、宍戸孝成さん、佐藤健太さん、鈴木寛大さん

2025年 9月12日(金曜日) 山形新聞 6面

若者の声 米沢興譲館高

「らしさ」の偏見 残さない

■1年 中川龍成

現在、日本ではジェンダー平等を実現するためのさまざまな取り組みが行われている。しかし、社会にはいまだ「女らしさ」や「男らしさ」といった偏見が強く根付いているのが現実ではないだろうか。

こういった偏見は、私たちが子どもの頃に周りの大人たちの言動によって無意識のうちに植え付けられた可能性がある。

例えば「男の子なんだから泣くな」「女の子なんだから優しくしなさい」といったものだ。こういった言葉を言われたり、あるいは自分で口にしたりしたことがある人も多いだろう。

こうした現状を打破するために、私たちは子どもに対して偏見を植え付けるような言動をしないように意識して行動したい。

既に教育現場では、ジェンダー平等に配慮した教科書の採用や、男女混合の名簿の作成といった取り組みが行われている。私たちが子どもへの接し方の意識をほんの少し変えることで、ジェンダー平等の実現につながるのではないだろうか。

外部の力で教員の負担減

■1年 須貝紋圭(あやか)

現在、日本では従来の働き方を見直す「働き方改革」が各地で進められている。しかし学校の先生方の働き方には課題が多く感じられる。

私は、先生方の負担を軽減するために、学校での外部人材の利用を提案する。

働き方改革が進まない理由の一つとして、労働時間の管理がされていないことが挙げられる。労働政策研究機構によると、中学校では77・1%の教員が上限を超える時間外労働をしているようだ。仕事が増えれば当然時間外労働となり、先生方への重い負担となる。仕事量を減らすため外部人材を利用し、少しでも雑務や事務仕事を任せることで、負担軽減につながるのではないか。

「先生」が私たちにとって身近すぎる存在だからといって、オーバーワークを当たり前のことのように見過ごしてはいないだろうか。今後、先生方の権利がより強固に守られることを願う。

紙面編集・鈴木 潤

2025年 9月13日（土曜日） 山形新聞 6面

若者の声 米沢興譲館高

「LGBTQ＋」教育促進を

■1年 洲崎結香

皆さんは「LGBTQ＋」という言葉をご存じだろうか。「LGBTQ＋」とは、多様な性的指向や性自認を持つ人々のことを包括的に表す。メディアでの露出が増加した現在においても、このような性的少数者に対する偏見や差別が根強く残っているように感じる。

「LGBTQ＋」に対する偏見や差別の多くは、無理解や先入観といった正確な知識の欠如から生じていると考えられる。現状、「LGBTQ＋」に関する内容を学校教育で取り上げた経験がある教員は約3割と低い割合となっている。私はこのような現状を是正するため、「LGBTQ＋」に関する内容を学校教育で積極的に扱うべきだと考える。それにより、多様な性に対する知見が広がり、互いを認め合うことにつながるのではないだろうか。また、当事者がカミングアウトしやすい環境をつくる第一歩になると考えている。

2025年 9月17日(水曜日)山形新聞 6面

若者の声

若い価値観 浸透させたい

米沢興譲館高

■1年 小野日向子

選択的夫婦別姓、賃金の上昇、少子化対策…こうした言葉に、参政権を得る何年も前から私は触れている。私は自分自身の考えを持ち、人と話しながら発展させ、今日まで生きてきた。私が将来、自分の考えで私が住む社会をより良くしていくためだ。

今年、私はタイに留学した。同級生から先生に至るまで、性的少数者（LGBTQ）、サブカルチャー好き、障がい者などいろいろな人たちがコミュニティーで伸び伸びと生きていた。その点に関して、日本とはあまり変わらないと思った。ただし、それは若い世代に関してだ。例えば、日本でもタイでも、高校生は同性愛に寛容な人の方が多い。

しかし、こうした私たちの価値観は何十歳も年上の方々に届いているだろうか。制度を制定するのは上の世代の方々がほとんどだが、冒頭で述べた社会の変遷の影響をこれから受けるのは私たちだ。新しい価値観の浸透をすくい上げる方法を、ぜひ確立してほしいと思う。

男女平等の実現へ「行動」

■1年 曽根原昊（こう）

男女平等の実現はSDGs（持続可能な開発目標）の目標のうち日本で最も進んでいないものの一つだ。これは急務であるにもかかわらず、なぜ進んでいないのだろうか。

理由は平等のための「活動」にあると考える。もちろん「行動」することを悪だとは思わない。「行動」は必要で、なければ平等の実現は夢のまた夢だろう。

しかし、「活動」は慎重に行わなければ、実現が遠ざかってしまう。いつかの過度なフェミニズム活動は分かりやすい例だ。過度な活動を見て国民の意識は高まっただろうか。いや、高まっていない。むしろ、フェミニズムや活動する方への負の感情を抱いた人もいたのではないだろうか。

これらのことから、男女平等を実現するためには、日常生活の中で「行動」すること、そして、多方面に目を向けて過度な「活動」は控えるようにすることが大切だと私は考える。この二つを一人一人が実践していくことができれば、男女平等の実現に一歩ずつ近づいていくと私は信じている。

紙面編集・伊藤早弘

2025年9月23日(火曜日) 山形新聞 13面

米沢興譲館高吹奏楽研究クラブ 60周年祝い演奏会

米沢市の米沢興譲館高吹奏楽研究クラブの創部60周年記念演奏会が14日、市民文化会館で開かれ、在校生から70代の卒業生までが節目を刻む音楽を響かせた＝写真。

同クラブは1961（昭和36）年、ブラスバンドクラブとして10人の部員で発足し、68年、現在の名称となった。2021年の創部60年のタイミングで新型コロナウイルス禍に見舞われ、今年の開催となった。

約500人が訪れ、OB・OGら約80人のほか、50人ほどの現役生も出演した。堂々とした曲調の校歌で開幕し、歴代顧問らが指揮者を務めた。元教員で、クラブを創設した故三用千秋氏が愛した「イギリス民謡組曲」をはじめ10曲以上を演奏し、聴衆を楽しませた。同クラブOB会の菅井浩之会長は「卒業生と現役生のつながりを深める良いきっかけになった」と話していた。（斎藤健太）

2025年10月3日(金曜日)山形新聞15面

ジャンル幅広く 高校生の美術展

米沢・独創的な103点

置賜地域の高校に通う生徒の力作を紹介する美術展が、米沢市のよねざわ市民ギャラリーで開かれている。高校生らしい独創的かつ挑戦的な造形物が並び、みずみずしく豊かな世界観を楽しむことができる。5日まで。

置賜地区高校美術連盟（会長・上浦勤長井高校長）加盟の10校で美術系部活動に所属する生徒が計103点を出品し、ジャンルも絵画、彫刻、映像と幅広い。自分の思いや考えを抽象的に表した作品が多く、日常生活や自然美を切り取った作品も。飼い猫をモデルにした生徒もおり、多彩なモチーフが目を引く。

高校生の力作103点が並ぶ美術展＝米沢市・よねざわ市民ギャラリー

各校顧問による審査の結果、米沢興譲館2年渡辺さくらさんの「矮小（わいしょう）な」が最高賞の地区高校美術展賞に選ばれた。時間は午前10時～午後5時。最終日は午後0時半までで同1時から表彰式がある。他の入賞者は次の通り。

▽特選＝嶋倉優斗（米沢興譲館）田中史奈（米沢鶴城）左右田心、左右田凜（長井）▽奨励賞＝青木怜奈、井上あかり（以上米沢興譲館）遠藤美波、遠藤汐乃來、大浦まる、市川楓那（以上米沢東）加藤千佳（米沢鶴城）大沼映太（南陽）小林成那（長井）山田祥大朗（九里学園）▽努力賞＝高橋芽生（高畠）緑川祈吹（置賜農）佐々木奈央（長井工）横沢さくら（荒砥）

（菅原武史）

2025年10月8日(水曜日)山形新聞 13面

データサイエンスの活用法に理解深める

米沢興譲館高2年生

データサイエンスに触れて学ぶ授業が2日、米沢市の米沢興譲館高（吉田直史校長）2年生約50人を対象に同校で開かれた＝写真。生徒が実践を交え、データサイエンスの手法や活用方法、重要性に理解を深めた。

生徒は座学で金融サービスと生活、データサイエンスと社会の関わり、人工知能（AI）の使い方を学んだ。実演ではゲームデータの分析、クマ出没データの分析と課題確認、AIを活用し対策を検討する実践的学習にも取り組んだ。

なじみのない用語やデータ、ツールに苦戦した生徒たちだったが、慣れるとスムーズに分析ツールを使った。高橋優希さん(17)は「社会の変化は激しく分析の必要性は高まっている。データを使い推測する重要性を実感した」と話した。

デジタルソリューション提供会社「Japan（ジャパン） Digital（デジタル） Design（デザイン）」の平山元清さん、小林優人さんが講師を務めた。同校は文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）で、授業は探究講座として企画した。

（菅原武史）

2025年 10月30日（木曜日）山形新聞 13面

鷹山の縁 ようこそ米沢へ

米沢興譲館高に高鍋高(宮崎)生

高鍋高の生徒を出迎える米沢興譲館高の生徒＝米沢市・米沢興譲館高

米沢市の姉妹都市・宮崎県高鍋町の高鍋高（間曽妙子校長）の生徒が22日から3日間、同市の米沢興譲館高（吉田直史校長）を訪れた。両校は米沢藩9代藩主上杉鷹山を縁とした交流を続けており、芋煮会などを通じて親交を深めた。

鷹山は高鍋藩秋月家の出身で、同藩7代藩主秋月種茂は鷹山の兄に当たる。先人たちのつながりを縁に、両校は2000年から交流を始めた。隔年で生徒が相互訪問し、新型コロナウイルス禍でもオンラインでやりとりするなど、絶えず交流を続けてきた。

今回は高鍋高の生徒3人と教諭1人が来校した。米沢興譲館高生は校舎前で出迎え、応援団が力強くエールを送った。高鍋高の生徒からは、絆の証しとして宮崎県のキャラクター「みやざき犬」のぬいぐるみが贈られた。生徒たちはクラス交流会や校内見学に加え、紅花染、芋煮会、上杉神社への参拝などさまざまな体験を通じて親睦を深めた。

高鍋高生徒会長の2年松井はなさん(17)は「（米沢は）気温が低くて驚いたが、温かな歓迎を受けうれしい。この縁を大切にしたい」と語った。米沢興譲館高生徒自治会長の2年片平夏南斗（かなと）さん(17)は「先人に感謝し、米沢のことを深く知ってもらう3日間にしたい」と話していた。

（杉山みなみ）

2025年11月12日(水曜日)20面

日本の教育 母国で生かす

インドネシア、カンボジア教員 米沢興譲館高 視察

インドネシアとカンボジアの教員22人が11日、米沢市の米沢興譲館高（吉田直史校長）を訪れ、授業の様子を視察したほか、教員と懇談した。日本の教育現場に触れた経験を母国で生かしてもらおうと、国際交流基金が昨年11月から全国展開するプログラムで、本県の視察は初めて。一行はカリキュラムや入試制度、学習設備について学び、日本の教育に理解を深めた。

授業を視察するカンボジアの教員たち＝米沢市・米沢興譲館高

学習内容や入試、設備学ぶ

訪れたのはインドネシアの教員12人、カンボジアの教員10人。中学校と高校に勤務する20～50代の中堅という。文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）で、特色ある教育を実践する同校が視察先に選ばれた。

22人は歓迎式典の後、4班に分かれて授業風景を見学した。通訳を介して教員から説明を聞きながら、熱心にメモ帳にペンを走らせた。懇談では同校教員を質問攻めにし、時間割やテストの回数に加え、生徒の評価方法、不登校の理由と対応方法、授業料に対する経済的支援策を尋ねた。

カンボジアの高校教員ロン・セイマーさん(34)は「高校生が自ら選んだ学校で、夢に向かって努力している様子が印象的だ」と振り返った。インドネシアのザイダン・アルマスさん(43)は、生徒が学校中を清掃する姿に興味を示し「自分で掃除するから誰もごみをポイ捨てせず、校内がきれいなのだろう」と分析した。吉田校長は「若者同士の交流促進につなげてほしい」と話した。

日本と東南アジア諸国連合（ASEAN）の次世代共創パートナーシップに基づく中高教員交流事業で、本年度は4回に分かれて加盟11カ国の教員や行政官が日本を視察する。一行は9日に来日した。12日に山形市の山形大小白川キャンパス、13日に鶴岡市の鶴岡サイエンスパークを見学する。東京で小学校を視察し、16日に日本を離れる。

（菅原武史）

動画はここから

2025年12月4日（木） 山形新聞 20面

米沢興譲館高生ら 台湾の生徒と交流

現地の高校を訪問

【台北共同】米沢市の米沢興譲館高と静岡県立静岡高の生徒ら計120人が3日、台湾の高校を訪れた。現地の生徒らと交流して文化の違いを学び、外国語でのコミュニケーションを経験した。台湾は修学旅行先として注目され、自治体も交流を後押ししている。

訪問したのは台北市中心部の国立台湾師範大学付属高級中学（高校）。歓迎式では台湾の生徒らが伝統音楽や日本の流行曲を演奏した。日本の2校の生徒も自校の紹介などをスピーチした。

歓迎式に参加した、米沢興譲館高と静岡県立静岡高の生徒ら ＝3日、台北市（共同）

静岡高の生徒は台湾の生徒とグループごとに対面。事前にオンラインで交流しており、すぐに打ち解けてあちこちで笑い声が起きた。食習慣や学校生活の様子を英語で尋ねたり、日本語や中国語を教え合ったりした。

静岡高の訪問は静岡県台湾事務所などとの連携で実現した。引率した同校職員は「台湾は滞在中の生徒の安全確保も比較的しやすい」と話した。米沢興譲館高は台湾研修を恒例化している。